JIAEM&SWAA201030

「西アジア先史時代の道具の用途を探る
―石灰岩製製粉具の使用痕研究―」
発表補助資料

石田　温美

■基本情報

ハッサンケイフ・ホユック遺跡

ハッサンケイフ・ホユックは現在のトルコ共和国南東部に位置する。遺跡の主な居住時期は紀元前 9600 年～9100 年である。石壁の耐久性の高い建物群や大型の製粉具が見つかっており、人々は通年で集落に居住していたと考えられる。発見された建物の中には立った板石など特殊な施設を持つ公共的建築物といえるようなものもある。出土した植物遺存体および動物遺存体はいずれも野生型である。植物遺存体のうち 90％以上がナッツ・果実類であり、ムギ類がほとんど出土していないことも特徴である。動物遺存体ではヒツジ、ヤギを中心にイノシシ、シカなどが見られる。また、ウサギやキツネなどの小型哺乳類の他、淡水魚も利用されていた。したがって、この遺跡は狩猟採集民による大規模な定住集落だと評価できる。

製粉具

対象物を割る，擦る，潰すなどの目的で使われた**磨製石器**[1)]および**礫塊石器**[2)]．製粉具という用語は，対象物を粉末化するための道具という意味を含んでいる．しかし，実際には，**皮性のムギ類**[3)]の籾摺りやナッツ類の脱殻をはじめとして様々な用途に使用された可能性があり，必ずしも対象物を粉末化するためだけに使われたわけではないことは民族例や使用痕分析の結果からも指摘されている．製粉具は，加工対象物が置かれる台の役割を果たす下石と，作業者が手に持って作業を行う上石から構成される．

注 1）磨製石器

製作技術による石器の分類において，主に磨きによって加工されたもの．よく知られる先史時代の尖頭器や掻器の多くは剥片石器（参考文献 i, ii）．

注 2) 礫塊石器

製作技術による石器の分類において，母岩（原石）を全く加工しないか，加工の度合いが少ないもの（参考文献 i, ii）.

注 3) 皮性のムギ類

ここでは穂が熟した際でも籾が堅いため，子実が取り出しにくいムギ類のこと．対して，現在よく食べられているパンコムギ，マカロニコムギは裸性であり穂が熟したときに籾が簡単にはずれる．西アジア初期農耕時代によく利用されていたエンマーコムギ，オオムギ，アインコルンコムギの野生種は皮性であり，種子を取り出すためには脱穀・籾摺りが必要である（参考文献 iii）.

【参考文献】（おもに概説書；学術論文・専門書はレジュメに記載）
i　加藤晋平・鶴丸俊明 1980『図録石器の基礎知識 I』柏出版.
ii　鈴木道之助 1981『図録石器の基礎知識 III』柏出版.
iii　丹野研一 2014「農耕のはじまりを，出土植物から調査する」『西アジア文明学への招待』悠書館 106-122 頁.

■関連情報（★ お薦め）

★ハッサンケイフ・ホユック遺跡の発掘調査紹介動画（日本語約4分）
http://rcwasia.hass.tsukuba.ac.jp/contents/content%20images/movie/hasankeyf.mp4

・「定住狩猟採集民」の世界ー西アジアの新石器時代から見えてくるものー：「掘るしん in しののい 2019」講演会資料
http://naganomaibun.or.jp/uploads/bcdfc0b8693efc40e276503c8b0c4269.pdf

・縄文時代と同じ頃の西アジア：東京大学と国立歴史民俗博物館共同企画展「縄文の記憶」展示図録
http://umdb.um.u-tokyo.ac.jp/DKankoub/Publish_db/2000dm2k/japanese/02/02-08.html

・旧石器はどのように使われたの？：日本旧石器学会「旧石器時代の教科書」
http://palaeolithic.jp/primer/4/index.htm

・UNESCO：ユネスコ世界遺産の基本情報（英語版）
ギョベクリ・テペ Göbekli Tepe
https://whc.unesco.org/en/list/1572/
チャタルホユック Çatalhöyük
https://whc.unesco.org/en/list/1405